

令和5年度横手市クリーンプラザよこて環境保全委員会 議事録

日時:令和6年3月21日(木)

午後3時～午後4時

場所:クリーンプラザよこて2階研修室

【出席者】

委員 2番 笹山 信雄  
4番 高橋 悟  
5番 照井 一夫  
6番 鈴木 成弘  
9番 和泉 康允  
10番 笹山 義夫  
11番 阿部 久一  
12番 今 雅平  
13番 佐藤 衛  
15番 佐藤 正人  
16番 柴田 清隆  
17番 関口 悦雄  
18番 佐藤 司  
19番 小野寺 悦朗  
20番 石沢 作男

事務局	市民福祉部長	竹原 信寿
	生活環境課長	高橋 道明
	生活環境課長代理兼廃棄物対策係長	鈴木 崇仁
	生活環境課廃棄物対策係 主査	五十嵐 秀則
	生活環境課廃棄物対策係 主事	鈴木 初音
	生活環境課廃棄物対策係 主事	佐藤 龍馬
	生活環境課廃棄物対策係 専門員	藤原 一裕
	株式会社よこてEサービス 所長	田中 伸也

【欠席者】

委員 1番 佐々木 芳  
3番 高橋 勝雄  
7番 高田 俊彦  
8番 前澤 匠  
14番 河村 幸喜  
21番 小松田 英人

—生活環境課長 高橋が進行—

1. 午後 3 時 00 分 開会

2. あいさつ

市民福祉部長	竹原 信寿
株式会社よこて E サービス 所長	田中 伸也
クリーンプラザよこて環境保全委員長	佐野 司

—佐野 司委員長が進行—

3. 議事録署名委員の指名

5番 照井一夫委員、15番 佐藤正人委員を指名

4. 協議

1) クリーンプラザよこて運営状況について  
事務局 鈴木(初)から説明

(質疑)なし

2) クリーンプラザよこて周辺環境調査結果について  
事務局 鈴木(初)から説明

(質疑)

荒沼、大沼、田久保沼の水質調査について、環境基準を超過傾向にある項目がみられるが夏場の猛暑が続くと今後もこのような結果が出るのか。

(回答)

クリーンプラザよこての運営によるものとは別で気候変動に伴い沼に限らず様々なところに影響が出ると考えられる。しかし、どのような結果をもたらすのかを予測することは難しい。

(質疑)

このような結果が出続ければ水系土地改良区でも対策をとらなければならない。その結果ため池の水を放流するとなった際に、下流へどのような影響が出るのか把握しなければならないため教えていただきたい。

(回答)

クリーンプラザよこての適正な運営を行うために調査を行っているわけだが、気候変動などにより、ため池の水を放流しなくならなくなった際には、生活環境課だけでなく関係各課と調整しながら慎重に進めたいと思う。

(質疑)

環境基準を超過した項目については、クリーンプラザよこてが影響したものではないと考え対策は取らないという認識でよいのか。

(回答)

環境基準を超過した項目について施設稼働以前から同様の傾向がみられるため、クリーンプラザよこての運営が影響したものではないと考え、特に対策は検討していない。

5. 報告

1) ペット・プラ施設整備について

事務局 鈴木(崇)から説明

(質疑)

新たなペット・プラ処理施設ではマイクロプラスチックは出ないのか。

(回答)

マイクロプラスチックについては細かく砕いた際に出る小さな破片などのことを指していると思うが、新施設で行う処理はこれまでと同様に圧縮梱包の機械を導入しているため破碎する手法と違い、マイクロプラスチックなどは出ないと考えている。

(質疑)

破碎処理でなくとも形状が変化しているため出ると思うがどうか。

(回答)

令和6年度に実施設計を行いその中で圧縮梱包機についてもどういったものがいいのかが検討する予定である。建物を2年かけて建設する予定となっているが、実際は圧縮梱包機の納品に2年ほどかかることになっている。そのため、機械の選定段階でマイクロプラスチックなどの不安要素がないかも含めて実施設計を行っていこうと考えている。

(質疑)

ごみ集積所に出す際ペットボトルなどをつぶして出さなければいけない自治体とそうでない自治体があるが、横手市の場合は、現在はどちらで今後はどうなる予定か。

(回答)

ごみ集積所にある回収ネットを共同で使ってもらっているため、より多く入るようつぶすことをお願いしている。しかし、つぶされていないものについても回収はしている。

(質疑)

今後新しい処理施設ができた時に施設内で圧縮するとの話だったが、集積所に出す際にはつぶさない方がいいのか今まで通りつぶして出せばいいのか教えてほしい。

(回答)

施設内での圧縮については再生品事業者へ受け渡す条件であり、集積所へ出す際には施設内での処理とは関係なく回収ネットへできるだけ多く入るようつぶしていただきたい。

(質疑)

再生品業者へ引渡す量と市内から回収してくる量のバランスはどのように考えているか。また、ペットボトルやプラスチックはどれくらい需要があるのか教えてほしい。

(回答)

再生品業者への引き渡しは一回につき 5,000kg前後を引渡しており、ペットボトルの回収量が増加する7月から9月頃になると月に4回ほど引渡している。その他の期間は月に2回から3回引渡している。市内から回収する量については、これまでの処理施設では計量してなかったためデータがない。しかし、横手市一般廃棄物処理実施計画の令和5年度見込みによると、ペットボトルは年間で206tの資源化量が見込まれている。プラスチック製容器包装類については年間で168tの資源化量が見込まれている。この数値については、分別が浸透しているためか年々上昇傾向にある。

再生品業者からの需要について、昨年度は世界情勢により石油等の金額が高騰した影響で、再生プラスチックの需要が高まった。昨年度の落札額は1,000万円を超えており、今年度においても途中経過だが700万円ほど見込まれている。そのため、再生プラスチックの重要は今後も高まったままになるのではないかと考えている。

(質疑)

国では現行のプラスチックを廃止し、自然に戻るようなプラスチックを研究しているようだが、それを受けて横手市の今後の方針について教えてほしい。

(回答)

国で新しいプラスチックを開発し広めていくのであれば横手市でもその方向に動いていくことになると思う。しかし、ペットボトルやプラスチック製容器包装類だけでなく廃プラ新法ができたことにより、製品プラスチックも回収し再利用するというような方向で当面は動いていく事が考えられるため、横手市としても同じ方向で取り組んでいきたいと考えている。

(質疑)

1) クリーンプラザよこて運営状況についての中でペットボトルについては資源ごみに含めて実績が記載されているのか。

(回答)

例年、会議資料を作成するにあたり12月までの実績に基づいて見込み量を掲載しているが、今年度ペット・プラ施設がクリーンプラザよこて敷地内に移動し処理を始めたのが1月からのため、今回の資料に反映させることができなかった。来年度の会議で提出する資料については掲載する予定である。

## 5. その他

(質疑)

何回かこの会議に参加しているが毎回年度末に開催ということで年度末の数値や実績が掲載できないものが結局次年度の会議でも説明されなかったということが何点かあった。そのため開催時期は年度の取りまとめが完了した新年度の春ごろにすることはできないだろうか。

(回答)

以前はゴールデンウィーク明けに1回、年度末に1回開催していた。しかし、コロナの影響でなるべく回数を減らすことになり年1回の開催となった。現在コロナも落ち着いているため以前の開催方式に戻したいと考えており、できれば新年度の早い段階で開催できるよう調整したいと考えている。

(質疑)

自身が普段捨てているごみ集積所が踏切の近くにあり、車を停車させてしまうと後続車や対向車の迷惑になってしまうためなにかいい方法はないか。

(回答)

ごみ集積所の設置場所については場所の確保も含めて各町内会にお願いしている。これまでも町内会だけでなく収集業者からも要望が来ることがあるが、町内会で調整していただきたい。

(質疑)

危険度合などについても市では感知しないということではないか。

(回答)

設置するとなれば市の補助金制度も活用することができるが、集積庫そのものについては町内会の持ち物となり、場所の確保と管理についても町内会にお願いしている。

(質疑)

しかし現在設置されている場所は市が許可した場所ではないのか。

※

(回答)

市で許可は出しているが、町内会からここに設置したいと申請があったものであるため町内会で調整していただきたい。

(質疑)

仏壇はクリーンプラザへ搬入可能か。

(回答)

10kgあたり130円で粗大ごみとして搬入可能である。

(質疑)

春にある全市一斉クリーンアップのチラシを回すのが市政協力員だったり町内会だったり、またターゲットがわからず周知の仕方に混乱している。クリーンアップのため環境美化推進員の仕事だと思っているがどのようなシステムで動いているのか。

(回答)

チラシは生活環境課で印刷し、各地域局市民サービス課を通して市政協力員に配布をお願いするという流れとなっている。地域によっては4月の第3日曜日に行うことができず別日に開催しているところもある。実際の開催日を決定するのは町内会となるため、環境美化推進員の方々には当日の専用ごみ袋の配布などにご協力いただきたい。しかし、合併前のやり方で開催している地域にはお任せしている状況である。

(質疑)

日程を調節し同日に開催する予定はないということか。

(回答)

調節したいと思っているが地域ごとに開催の仕方が違い、全市一斉に行うのは現状難しい。

(質疑)

Y8 サミットにより中学生から提案された事業と大々的にチラシに掲載されていたが、地元の子供たちとの接点も感じられずさらに混乱を招いている。せつかくの中学生からの提案のためもっと子供たちが主体的に地域に呼びかける仕組みがあっても良いのではないか。

(回答)

1 回目、2 回目と小中学生の参加を呼び掛けたことがある。しかし、地域によってはごみ拾いだけでなくU字溝の泥上げも行うため、小中学生の参加が難しいとの意見が寄せられたことがある。そのため、小中学生には学校を通じて生徒一人ひとりにクリーンアップ用のごみ袋を配布し4月の第3日曜日に限らず友達同士でもごみ拾いをしてもらおうよう呼び掛けている。

(他に質疑なし)

—生活環境課長 高橋が進行—

8. 閉会

令和 6 年 4 月 9 日

議事録署名委員

照井一夫

渡藤正人